

# NZ と USA で稼働する林業機械



北米は Link-Belt ブランドで展開

## BACK NUMBERS

**森友 vol.15**  
堀川林業 株式会社  
北海道  
SH75X-6A KESLA 20SHmkII  
合同会社 トップフォレスト  
宮城県  
SH135X-7 MSE フェーバーンチャザルスロホ  
大野村本店  
埼玉県  
SH75X-7 KESLA 20SHmkII  
株式会社 白糸植物園  
静岡県  
SH120LC-7SM (スミマックス)  
但西部森林組合  
兵庫県  
SH135X-7 MSE ハーベスタ(トリケラ)  
(有) 中越木材  
広島県  
SH120-7 PONSSE H6  
有限会社 大川林業  
熊本県  
SH135X-7 AFM テレスコピックアーム&伐倒ソー

**森友 vol.14**  
株式会社 リーフフォレスト  
大分県  
SH75X-6A KESLA 20SHmkII  
株式会社 あすなる四国支社  
高知県  
SH135X-7 MSE フェーバーンチャザルスロホ  
北はりま森林組合  
兵庫県  
SH75X-7 KESLA 20SHmkII  
下呂総合木材市売協同組合  
岐阜県  
SH120LC-7SM (スミマックス)  
美和木材協同組合  
茨城県  
SH135X-7 MSE ハーベスタ(トリケラ)  
浜崎製材 株式会社  
福島県  
SH135X-7 AFM テレスコピックアーム&伐倒ソー  
岩手県  
SH120-7 PONSSE H6

**森友 vol.13**  
米崎銘木株式会社  
京都府  
SH75X-6A  
KESLA20SHmkIIハーベスタ  
株式会社柳沢林業  
長野県  
SH135X-7  
KESLA25SHmkIIハーベスタ  
スルガフォレスト株式会社  
静岡県  
SH135X-6 KESLA25SHmkIIハーベスタ  
株式会社鹿角緑地  
秋田県  
SH135X-7 KESLA25SHmkIIハーベスタ  
千歳林業株式会社  
北海道  
SH120-7 IWAFUJI グラッブル

**森友 vol.12**  
越智重機林業  
北海道  
SH135X-7  
PONSSE H6 ハーベスタ  
有限会社真貝林工  
北海道  
SH135X-7  
MSE-TR-550 トリケラハーベスタ  
株式会社島田木材  
富山県  
SH135X-7  
KESLA25SHmkIIハーベスタ

**森友 vol.11**  
井上産業株式会社  
北海道  
SH135X-7 WOODY 50  
みちのくバイオエナジー株式会社  
青森県  
SH120LC-7MH MURTO グラッブル  
有限会社産一林業  
福島県  
SH120-7 IWAFUJI GP-45A  
有限会社西湘造林  
神奈川県  
SH75X-6A NANSEI グラッブル  
竹上木材株式会社  
和歌山県  
SH135X-7 KESLA25RHmkII  
隠岐島後森林組合  
島根県  
SH120-7 NANSEI スイングヤーダ  
有限会社つしまエコサービス  
長崎県  
SH135X-7 IWAFUJI グラッブル

**森友 vol.10**  
仲山林業株式会社  
岩手県  
SH120-7 PONSSE H6  
アブクマエコロジー有限公司  
福島県  
SH135X-7 KESLA25SHmkII  
企業組合 山仕事創造舎  
長野県  
SH135X-7 IWAFUJI グラッブル  
静岡市森林組合  
静岡県  
SH135X-7 KESLA25SHmkII  
株式会社山崎木材市場  
兵庫県  
SH120-7 湯木仕様  
福岡都市開発株式会社  
福岡県  
SH135X-6 KETO150  
株式会社トライ・ウッド  
大分県  
SH135X-6 NANSEI NPH-48

**森友 vol.09**  
オホーツクバイオエナジー  
株式会社  
北海道  
SH135X-6 グラッブル  
雄勝広域森林組合  
秋田県  
SH135X-6 WOODY  
田中林業株式会社  
東京都  
SH75X-6A KESLA20SH  
株式会社守岡林産  
広島県  
SH135X-6 KETO  
株式会社高知官材  
高知県  
SH135X-6 KESLA25SH

**森友 vol.08**  
苫小牧バイオマス発電  
株式会社  
北海道  
SH250-6MH  
株式会社 レンタルのニッケン  
東京都  
株式会社 ヨシカワ  
石川県  
八頭中央森林組合  
鳥取県  
SH75X-6A  
丸和林業グループ  
山陰丸和林業株式会社  
京都府  
SH135X-6

**森友 vol.07**  
青藤重興業  
北海道  
SH135X-6  
気仙地方森林組合  
岩手県  
SH120-5  
小田原緑化開発  
群馬県  
SH135X-6  
白川町森林組合  
岐阜県  
SH135X-3B  
丹波市森林組合  
兵庫県  
SH75X-3B  
山陽商事  
岡山県  
SH125X-3  
宮崎森林発電所  
宮崎県  
SH120-5

**森友 vol.06**  
五島森林組合  
長崎県  
SH135X-3B  
四万十町森林組合  
高知県  
SH75X-3B  
飛騨高山森林組合  
岐阜県  
SH120-5

**森友 vol.05**  
グリーン・シャイン  
鳥取県  
SH75X-3B  
秋田グリーンサービス  
秋田県  
SH75X-3B  
つかる森林組合  
青森県  
SH135X-3B

**森友 vol.04**  
山崎木材  
広島県  
SH135X-3B  
美山町森林組合  
福井県  
SH135X-3B  
群馬県森林組合連合会  
群馬県  
SH120LC-5SM  
北海道ニツタ  
北海道  
SH135X-3B

**森友 vol.03**  
上野物産  
鹿児島県  
SH75X-3B  
長浜市伊香森林組合  
滋賀県  
SH135X-3B  
神子沢林業  
山梨県  
SH120-3  
木材商秋田林業  
徳島県  
SH120-5  
竹田木材  
石川県  
SH135X-3B  
よつばフォレスト/浅野産業  
北海道  
SH135X-3B

**森友 vol.02**  
満洲林業  
高知県  
SH75X-3  
松阪地区木材協同組合  
三重県  
SH135-3B  
秩父広域森林組合  
埼玉県  
SH75X-3B  
西垣林業  
奈良県  
SH200LC-5SM  
日和田林産  
岐阜県  
SH135X-3B  
三井物産フォレスト  
北海道  
SH120-3

**森友 vol.01**  
萬造寺林業  
鹿児島県  
SH135X-3  
美山村森林組合  
和歌山県  
SH75X-3B  
三次地方森林組合  
広島県  
SH75X-3  
二和木材  
岩手県  
SH120-3

## 住友建機株式会社

### 住友建機販売株式会社

〒141-6025 東京都品川区大崎2-1-1(ThinkPark Tower) TEL.03-6737-2610  
北海道 統括部 TEL.050-9001-8626 東北 統括部 TEL.050-9001-8630  
関東甲信越統括部 TEL.050-9001-9709 中部 統括部 TEL.050-9001-8639  
関西 統括部 TEL.050-9000-3501 中国 統括部 TEL.050-9001-8600  
九州 統括部 TEL.050-9001-8647

●オペレータの養成・資格取得のご相談は 千葉教習センター TEL.043-420-1549  
愛知教習センター TEL.0566-35-1311 大阪教習センター TEL.06-6476-4555

<https://www.sumitomokenki.co.jp>

# 森友

## SHINYU vol.16 2024 AUTUMN CONTENTS

**有限会社 共同木材土木**  
北海道  
SH120-7 玉置製グラッブル

**遠野地区国有林材生産協同組合**  
岩手県  
SH135X-7 イワフジ GP-45A

**有限会社 遠田林産**  
山形県  
SH135X-7 LOGSET ハーベスタ TH55

**南魚沼森林組合**  
新潟県  
SH135X-7 オカダ木材グラッブル+ウインチ

**株式会社 大義林研**  
福井県  
SH135X-7 Woody WH50-1

**ロガーワークス 株式会社**  
福井県  
SH135X-7 イワフジグラッブルソー

**山元林業**  
宮崎県  
SH135X-7 KETO 150 ECO





有限会社 共同木材土木

本社所在地：北海道檜山郡厚沢部町松園町13番4号  
代表取締役 米谷 誠市様  
電話 0139-64-3732  
法人設立 平成15年

有限会社共同木材土木が所在する檜山郡厚沢部町(あさぶちょう)は北海道南西部、松前半島の付け根あたりに位置し、道内でも古くから開拓の始まった農林業を主幹産業とする町である。農業では大正時代に同町にある道立の農業試験場で日本で初めてメークインを栽培したことから「メークイン国内発祥の地」として有名である。林業においては江戸時代松前藩の所領であった頃に山を解放し林業を奨励したことから隆盛し、現在も町域の80%は山林であり、その豊富な森林資源を活かして盛んである。樹種分布としては道南スギが多いが、ヒバやゴヨウマツの自生北限、トドマツの自生南限が混在しており多様な植生が見られる。

**同社は現会長米谷明義氏が、林材運搬を業務として起業したことに始まる。**その後30余年、社業は順調に発展し平成15年には法人設立、三年前に会長の長男である米谷誠市氏が代表取締役社長に就任され、事業を受け継がれている。

北の大地でつなく  
親子二代の信頼の絆

今回米谷社長にお話を伺えた。「会長が弊社を起業した当初は、トラック1台で林材を運ぶ仕事を一人でしていました。30年前に私が大型免許を取得してからはトラック2台で林材運搬の仕事を二人でしていましたが、会長も私も将来的には運送以外に造材もできる会社を創りたいと考えていました。運送の仕事を通じて出会い、お世話になった方々にその事を相談したところ、皆さんから応援、ご協力の言葉がいただけたので、運送部門は私、造材部門は会長がそれぞれ受け持つことで事業を開始しました。もちろん大変なこともいろいろありましたが総じて事業は順調に伸びてきたほうだと思います。現在弊社の社員は総勢15名です。その内伐採班には7名が従事しており、稼働している林業機械はショベル系が10台、グラップル、グラップルソー、ハーベスタ2台など、一通りは揃っていると思います。また、その10台を毎年1台ずつ新車を導入して入れ替えています。取り扱いの樹種としては道

南スギがメインで年間の素材生産量は約20,000m³です。6台の運搬用のトラックを使い、伐採した材の90%以上を自社便で函館港に運び、石巻や海外へ合板材用として出荷しています。」  
これからの展望やご使用いただいている住友機についてお聞きした。「これまで仕事が途切れることもなく順調でした。ただ近年は民地が少なくなり山を買うのが厳しくなっていますが、現状は維持していきたいですね。また、若い世代の人材を受け入れたいと思っていますが、なかなか難しいのが現状です。住友の機械に関しては今まで特に考えたことはなかったです。」

**ベースマシンの故障は少ないですし、動きにも満足しています。**何かあった時のメンテナンスも代理店である第一自動車工業さんが素早く対応していただけるので本当に助かっています。」  
インタビューの翌日現場取材時に米谷明義会長にお会いできたので、少しお話をうかがいました。「トラックに乗りいろいろな所へ行き、多くの人と出会いましたが、本当に良い出会いばかりでした。運送の時も林業を始めてからも、その方たちに支えられて仕事が途切れることは一度もなく今日まで来れました。第一自動車工業の工場長とは林業を始めた時からの付き合いです。住友機もその工場長に勧められたから導入しました。信頼できるパートナーから勧められた信頼の機械です。最近では住友機を毎年入れています。私は信頼できるメーカーを使い続けることが間違いないと思っています。」



SH120-6 イワフジ GPI-40TC



SH120-7 玉置製グラップル



SH120-6 玉置製グラップルソー



第一自動車工業様と談笑中



1 久末 武彦さん 2 佐々木 悠也さん 3 米谷 明義 会長 4 斉藤 光助さん 5 米谷誠市 代表取締役 6 寺島 幸雄さん 7 高田 昌一さん 8 庄山 敦さん





遠野地区国有林材  
生産協同組合

本社所在地：岩手県遠野市東穀町5番42号  
理事長 佐々木 光正様  
電話 0198-62-3439  
設立 昭和39年



前理事長 鈴木次男様

遠野地区国有林材生産協同組合が所在する遠野市は、岩手県南東の内陸部にある遠野盆地とその周囲を囲む北上山地を市域としている。河童や座敷童子などが登場する「遠野物語」の舞台となった町として有名である。

遠野市の面積は82,562haあり、森林が占める面積は68,609ha、森林率は83%になる。また、国有林は29,622haであり森林面積の43%である。今回お訪ねした遠野地区国有林材生産協同組合は、その名前のとおり60年にわたって国有林と共に歩んでこられた組織である。

今年5月に勇退された前理事長鈴木次男氏のあとを受け、就任されたばかりの佐々木光正理事長にお話しを伺った。「今年の春まで520名の組合員が名簿に記載されていました。二代、三代と相続などで、実際出資していることも知らない世代が多くなってきたので、2年かけて整理し組合員は今50名弱になりました。そのうちの8割以上の方が実際施業されています。

昔は、国有林を払い下げてもらい、ほとんどの人が炭焼をして生計をたてていたと聞いています。国有林材生産協同組合、私たちは「国生協」と呼んでいますがこの組織は岩手県内に盛岡や雫石など8社あります。他府県にも「国生協」のような組織があるかどうかは知らないですね。今は払い下げがなくなり、入札で国有林の間伐を請負って、その伐採した木を山土場にはい積みするまでが仕事になります。樹種としてはスギ、カラマツあとは雑木です。アカマツは松食い虫の関係でこの季節は扱えません。冬場だけです。請負はほとんど間伐で、2存1伐の列状間伐をしています。作業班は15人で2班編成しており、それぞれが約10,000m<sup>3</sup>産出しているので素材生産量は合計20,000m<sup>3</sup>になります。施業区域としては、他で仕事しないというのではなく、市域が広いので遠野だけで間に合っている状態です。ただ若い人が少ないですね。平均年齢は60歳を越えていると思います。理事長に就任してから考えているのは、組合員に喜んでもら

える職場にしたいということです。組合員に多く還元するために生産性を上げて収入を増やす。そのため高性能林業機の必要性がますます高まり、機械化をさらに進めるべきかと。今所有しているのは、3Bのザウルス1台、6型のフェラバンチャー2台、7型のグラップル2台、7型のプロセッサ2台、ハイブリッドバケット2台、あと0.25が1台の計10台です。すべて住友機です。住友しかないで、他のメーカーとの比較はできませんけど、営業マンもサービスも対応が良いし、もっとも大切なのは、機械が故障した時にいかに早く直してくれるかだと思っています。サービスが定期的に点検に来てくれているので、大きなトラブルはなくなっています。

メンバーで一番若いのが30代だったのですが最近21歳の子が二人入ってきました。アカデミーの卒業生が同級生を誘ってきたのですが、二人とも頑張っていますよ。私自身作業道の四万十工法の研修やグリーンマイスターの研修を受ける機会を得て林業家としての視野が少し広がったかと思っています。若い二人が遠野での林業仕事の中で学べることも多いかと思いますが、研修の機会などを活かしてより多くのことを学び遠野の林業を支える人材に育ってくれることを願っています。」

遠野の森を守り次の  
世代に繋ぐ

SH135X-7 イワフジ GP-45A



1 瀬川 和義さん 2 佐々木 信野さん 3 小林 良造さん 4 藤田 知祐さん 5 大木戸 憲治さん  
6 小笠原 光博さん 7 杉山 幸信さん 8 石畠 豊さん 9 佐々木 光正 組合長 10 小笠原 純さん  
11 佐々木 一三三さん 12 佐々木 富一さん 13 鈴木 辰雄さん 14 菊池 長栄さん



SH135X-7 オカダ ハイブリッドバケット



弊社営業と談笑中





有限会社 遠田林産

本社所在地：山形県酒田市上青沢字向芦沢44  
代表取締役社長 遠田 勝久様  
電話 0234-64-4404  
創業 昭和52年

酒田市は、地理的には山形県の北西部に位置し、庄内平野で育った良質の庄内米と烏海山の伏流水で作られる日本酒が特産品として有名である。また歴史的には平安時代に出羽国の国府として、あるいは貿易の中継地として栄え、江戸時代に西廻り航路が確立するとその繁栄は「西の堺、東の酒田」と称され羽州屈指の港町として発展した。

山形県内でも屈指の林業事業体である有限会社遠田林産を訪問し代表取締役社長遠田勝久氏にお話を伺った。「まず弊社の概要ですが創業は昭和52年、法人設立は平成2年になります。社員数は現在35名。このうち30名が1班5名編成の6班体制で素材生産業務についています。施業のテリトリーは酒田市と北隣りの遊佐町です。昨年度の素材生産量は40,000mを超えました。あとマツクイムシの防除作業や高速道路建設関連の伐採や河川工事

などの取り扱いを加えると50,000mを超えています。機械は、グラップル6台、フェラバンチャ4台、ハーベスタ2台、フォワーダ5台を所有しています。他社製の機械もありますがここ3～4年は住友建機製だけを導入しています。」

最近住友建機製だけを導入いただいている理由をお聞きしたところ「どんなに良い機械でも壊れることがあり修理が必要になります。それに素早く対応してくれることが大事なのですが自動車などと比較すると建機を修理できる場所の選択肢が少ないと感じています。メンテナンスを考慮して6年前からニッケンさんを通じて機械を購入して面倒を見てもらっています。新しく機械を導入するにあたって、ニッケンさんから住友の扱うハーベスタは北欧製のものが多く油圧配管の作りや油圧量の安定性など他社製のベースマシンと違いかなり良い機械だと勧められたので、とにかく購入しようと思いました。**流量がかなり出ているのが玉切り時が今までと全然違ったのでその後は住友の機械だけ購入するようになりました。」**

機械化はいつからですか?とお訊ねしたら「正確には覚えていませんが法人化以後ですね。私の祖父の時代は農業と林業の兼業農家でした。現会長である父の時代に林業を専業としてからです。最初に購入したのも住友製の機械でした。性能は今の機械とは比較になりませんが、何でもコンピューター制御でなくアナロ

グでとにかく頑丈でした。修理も自分たちで出来ましたし、どこからかグラップルを持ってきて試行錯誤しながら取付したりとか機械に対する愛着が全然違いました。こうしてみると住友さんとはご縁が有ったのかも知れません。」  
将来の展望をお聞かせください。「10年後自分たちを取り巻く環境がどう変化しているか全く想像できない時代だと思っています。近隣に大きな工場ができて増産しようとなっているのか現状を維持するのがやっとなのか、どちらにせよ環境の変化に柔軟に対応するだけでしょう。過去には昭和40年代に拡大造林の号令がかかって山で木を伐ったところはすべてスギを植えたのにTPPで外国材が入ってきて値段が下がってしまいそれ以降利益の出ない山は見捨てられて、山が負の財産になってきている現状があります。素材生産業は地域との信頼で成立していると考えています。皆伐、再造林の循環型施業によって山林所有者により多くの利益を還元することを目標として事業に取り組むことで山を守っていけると思っています。」

自然にやさしい森づくり

SH135X-7 LOGSET ハーベスタ TH55



SH135X-7 LOGSET ハーベスタ TH55



レンタルのニッケン様と談笑中

佐藤 司さん

相蘇 則幸さん

堀 章さん

長澤 一男さん





南魚沼森林組合

本社所在地：新潟県南魚沼市舞子1819番地  
代表理事 組合長 笠原 喜一郎様  
電話 025-783-3349  
設立 平成17年

南魚沼森林組合が所在する南魚沼市は、新潟県中越地方に位置し、平成の大合併により南魚沼郡の3町が合併して誕生した市である。組合も同時期に旧南魚北森林組合と旧南魚沼郡南部森林組合が合併して発足した。組合の管轄地域は、南魚沼市と隣接する湯沢町になる。

組合員数は2,702名、管理する森林面積は25,000ha。樹種は99%がスギ、あとブナやナラが散見するという。

南魚沼森林組合の代表理事 笠原 喜一郎組合長にインタビューを受けていただいた。

「最初に組合のことをお話すると、全員で39名在籍しており、内訳として事務系職員が7名、技術員が32名、技術員

のうち素材生産チームは9名です。素材生産量は、昨年度実績として5,000m<sup>3</sup>になります。樹種としては99%スギになります。生産量がチームの人員からして少なく思われるかもしれませんが、この地域は林業後進地域といってもよく、県の出先機関である南魚沼地域振興局管内に6組合があり、他に認定事業者との全体を併せても20,000m<sup>3</sup>程度しか生産できていないのが現状です。あと技術員の仕事としてはJRの防風林の管理が1班、JRの送電線の班が1班。他に地元の支障木の伐採や河川の除草などの請負があり、仕事が重なった時は、工程にあわせて必要な人員を割り振りながら作業しています。素材生産量5,000m<sup>3</sup>の内訳はA材が5~10%程度、地元の製材所に納めています。B材は40~50%程度、地元の合板会社へ、残りのC・D材は近隣のバイオマス発電所に送っています。

機械化は最近のことで、平成29年が最初でした。その後順次機械化を進めてきました。現在ではグラップル5台、プロセッサー1台、フォワーダ1台を所有しています。

以前は保育中心でしたが、行政からの指導もあり、組合の方針として素材生産に力を入れ始めています。機械化当初は4~5人の1班で細々とやっていたので年間400~500m<sup>3</sup>しか生産できていませんでした。機械化で生産量が10倍になったので高性能林業機の必要性を実感しています。また間伐の仕事が多かったのですが、ここ2年ほど主伐の仕事も入ってきています。今受注している主伐の仕事は森林整備センターの複層林で現場までの道も山の中の作業道も入っているのですが、この地域全体でみると間伐も遅れていてほとんどの山には道が入っていない状況です。農業では南魚沼産コシヒカリが日本一美味しい米だという評価を受けたことにより、稲作中心の農政で山にはなかなか目が向かなかったというのが現状です。平らな場所がすべて水田になってしまい山に行くための道も農道しかないの、大型車が通れないことが多く、最近の現場では道がないので、フォワーダで3km先の土場まで運んでいます。米どころならではの苦労話ですが、今後は序々にでも改善していかなければならない問題だと思っています。素材生産量を増やすためには、まず道の整備が必要です。利益を出して組合員や職員・技術員に還元することも大切なことですし、組合の使命として、未来に豊かな森林資源を贈ることが大切だと思っています。」

に力を入れ始めています。機械化当初は4~5人の1班で細々とやっていたので年間400~500m<sup>3</sup>しか生産できていませんでした。機械化で生産量が10倍になったので高性能林業機の必要性を実感しています。また間伐の仕事が多かったのですが、ここ2年ほど主伐の仕事も入ってきています。今受注している主伐の仕事は森林整備センターの複層林で現場までの道も山の中の作業道も入っているのですが、この地域全体でみると間伐も遅れていてほとんどの山には道が入っていない状況です。農業では南魚沼産コシヒカリが日本一美味しい米だという評価を受けたことにより、稲作中心の農政で山にはなかなか目が向かなかったというのが現状です。平らな場所がすべて水田になってしまい山に行くための道も農道しかないの、大型車が通れないことが多く、最近の現場では道がないので、フォワーダで3km先の土場まで運んでいます。米どころならではの苦労話ですが、今後は序々にでも改善していかなければならない問題だと思っています。素材生産量を増やすためには、まず道の整備が必要です。利益を出して組合員や職員・技術員に還元することも大切なことですし、組合の使命として、未来に豊かな森林資源を贈ることが大切だと思っています。」

豊かな森林資源を未来へ贈るために



SH135X-7 オカダ木材グラップル+ウインチ



川辺機工様と談笑中



南魚沼森林組合

1野口 雄一郎さん 2今井 幸博さん 3萩原 真人さん 4菊地 祐介さん 5南野 耀平さん 6青木 明太さん 7早川 英明さん 8中嶋 司さん





株式会社 大義林研

本社所在地：福井県福井市和田中1丁目331  
代表取締役 大泉 雅人様  
電話 0776-26-4123  
創業 平成24年



大義林研の施業の美しさ、特に作業道の仕上りの美しさが評判になり、その施業方法を探りに福井県内の同業他社が頻繁に大義林研の現場を訪れる時期があったという。

株式会社大義林研 代表取締役 大泉 雅人氏にお話を伺った。「私は26歳の時に縁あって両親の故郷である福井県に移り、林業の世界に入りました。当時の林業は特殊伐採が中心でした。その後施業方法が手造材から高性能林業機械へと変化していきます。民間の事業体でそれらの作業経験を積み、平成24年に独立しました。

現在社員は私を含め7名、そのうち2名が女性です。平均年齢は40代後半です。全員で現場に入り性別に関係なく機械に乗って施業しています。素材生産量は昨年度実績で8,000mになります。高性能林業機は、グラップル3台、グラップルソー1台、ハーベスタ1台の計5台を所有しており、ベースマシンは全て住友建機製です。その他フォワーダと木材運搬用の4tトラックを2台所有しています。施業地域としてはほとんど福井市内で施業しています。特に福井市に限定しているのではなく、市の森林面積はみなさんが想像されるよりずっと広いので仕事量として十分まかなえているということです。樹種は99%スギであと雑木が少しある程度

です。福井は山が立っていて、雪深い土地柄なので根曲がりした木や雪折れした木が多く見られます。太い木が多いので、0.45の機械を使っています。

“**為すべきことをおろそかにしないことが最善の近道**” 私が座右の銘としている言葉です。道ならその開設工程の一つ一つを手抜きや妥協せずに丁寧に仕上げていくこと、これが最も重要なことだと思っています。ただ、福井のような豪雪地帯では現場を仕上げるには降雪期までのスケジュール調整など高い効率性も要求されてきます。特に道づくりに関して、その作業に適した林業機械はそう多くありませんでした。そのことがいつも念頭にあり、或る時グラップルのアタッチメントで道づくりに特化した形状の掴むことで使える鋼製バケットを着想しました。簡単に着脱可能で転圧や盛土整形の作業ができ、複数メーカーの機種に対応できる汎用性のあるバケットを作り出そうと、その形状を求めて、四六時中考察を続ける日々を過ごしました。試作品製作時もミリ単位での修正に修正を重ね、中島建機の協力を得て、構想から三年の歳月を費やして【大義バケット】を完成させました。その後、中島建機の社長さんから『このような優れた製品は林業の発展を考えた時、独占するのではなく多くの方と共有するべきだ』とのアドバイスを受け、森林組合を

為すべきことを  
おろそかに  
しないことが  
最善の近道

はじめ他の林業事業体の施工現場で試用していただき施工性や作業効率の良さで高い好評をいただきました。その時に掘削も可能なバケットをというご意見があり、その機能を備えたバケットの製作に乗り出し、新しい機能を備えた2号機も完成に至りました。道づくりは森林整備の根幹です。丁寧な道づくりが、その後の間伐作業を効率的に進め、将来的には主伐時の大きな財産になると確信しています。施業が終わった時、見た目に美しく、多少の雨にもびくともしない状態にして山を所有者さんへお返しすることを心がけています。所有者さんが主伐期を楽しみに迎えられるような「経済林」や「財産林」といえる山づくりを今後も追求していきたいと思います。“為すべきことをおろそかにしない”ことを心がけつつ、新しいひらめきのヒントを模索しながら、次の世代へ引き継ぐ林業の未来のために努力していきたいと思います。」



SH135X-7 Woody WH50-1

SH135X-6 大義バケット



SH135X-6 大義バケット



代理店中島建機 中島社長様と談笑中



角上 伸一さん 吉田 達郎さん 小林 光博さん 高畑 昭宏さん  
内田 海良さん 大泉 雅人 代表取締役 大泉 優美子さん





# 新しい林業の時代を切り開く

## ロガーワークス 株式会社

本社所在地：福井県坂井市丸岡町猪爪6-1-14  
代表取締役 古城 達也様  
電話 090-4686-8775  
設立 平成22年

坂井市は、福井県北部に位置し、いわゆる平成の大合併で旧坂井郡四町の合併により平成18年に誕生した。市の誕生時点で南に隣接する県庁所在地の福井市に次ぐ県内二番目の人口を有する市となった。

今回ご紹介するロガーワークス株式会社は、その福井県坂井市において平成22年に現代表取締役古城達也氏が、28歳の時創業した林業事業体である。起業当初は保育中心の業務に携わっていたが、平成26年頃からは素材生産業務にも着手し、業務は順調に発展し平成30年には法人設立を果たす。その成長は目覚ましいものがあり近年は東京事業所も開設し関東圏への進出も視野に入れている。

ロガーワークス社の代表取締役古城達也氏に社の現況や将来の展望などをお聞きした。「現在社員は9名、福井が5名、東京が4名です。平均年齢は37〜38歳くらいです。そして、福井の5名は全員が素材生産班で昨年度実績は12,000

mになります。稼動している機械の内訳ですがベースマシンはすべて住友機でグラップル3台、グラップルソー1台、オートカプラー式フェラーバンチャー1台、ウッディーのハーベスタ1台の計6台を所有しています。あとフォワーダが2台と切り出した材を自社運搬しているのでトラックが4tと10t、あと重機運搬用の10tの計3台があります。仕事は森林組合から発注いただくことが多く、県内ほとんどの森林組合を網羅しているので福井県全域が施業区域になっています。嶺北と嶺南を比較すると樹種では嶺北がほとんどスギなのに対し嶺南はヒノキが多く2割程度あります。嶺南のほうが山はゆるやかですが、獣害被害がひどいですね。仕事の方法で他社と違うのはハーベスタなどの機械の担当を決めていないことです。

**全員がハーベスタ、グラップルを操作でき、チェーンソーマンであり、トラックの運搬まですべてをこなせるようにしています。**もともとハーベスタの購入以前は手造材をしていて、木を大事にして高く売れることを心がけてきました。単純にすべての木を4mで切ってしまうのではなく、その木の特性を見極めることが大切だと思ってやってきました。手造材をしていたことで全員が木を見る技術を培ってこれたので全員がハーベスタに乗れるようになったと思っています。



ハーベスタのオペを一人に決めるとその人が休むと仕事が止まってしまうので、作業効率を考えると全員がすべての機械を扱えることが重要です。

社の方針として社員に徹底していることがあります。『木と機械を大切に扱う』と『生産性を高めるための効率を重視する』のこの2点です。仕事を早くきれいに仕上げることで、木を高く売ること、良い仕事を積み重ねることで林業を安全で高収入の仕事にできると考えています。そのために、従来の方法にとられない林業の形態や他社との差別化など色々試したいことがあります。また年に何回かは他府県の林業事業体に見学に行き福井の林業に应用できないかと模索しています。機械も面白いものがあれば試したいですね。」最後に所有されている機械がすべて住友機である理由と今後弊社に希望されることをお訊ねしました。

「機械は貴社の代理店である中島建機の社長の人柄を信じて買っているだけです。6型から他社製の機械と比較してきましたがバックホーでいうとバランスと操作性が良いと思います。希望としては、土木用ではない専用機、何かわくわくするような面白い機械を作ってほしいですね。」



中島建機様と談笑中

SH135X-7 イワフジグラップルソー



1.加納 寛之さん 2.小嶋 健司さん 3.古城 達也 代表取締役 4.有吉 剛さん 5.堂埜 勝義さん 6.中野 浩之さん



SH135X-7 イワフジグラップルソー



SH135X-7 Woody H50



SH120-7 KETO 150 ECO



これまでも、  
これから大切な  
ふるさとの森と生きる



山元林業

本社所在地：宮崎県北諸県郡三股町大字宮村1420番地  
代表者 山元 隆之様  
電話 0986-51-0048  
設立 平成11年

山元林業が所在する宮崎県北諸県郡三股町は、宮崎県の南部の都城盆地にあり、町の東部は、鰐塚山地の山裾に包まれている。山が近いだけあり都城地区では昔からの林業盛んな地域で、老舗と呼べるような大手の素材業の方が三股町だけでも数社あるという。その地で親子二代50年続く山元林業の山元隆之代表にお話を伺うことができた。  
「山元林業を創業したのは先代である私の父になります。私の父は、50年ほど前から大手製紙会社系列の事業体の下で、国有林での単価請負の搬出業をしていました。その後私も学校を出て父を手伝っていたのですが、平成11年に国有林が広葉樹を切らない方針になりました。それに伴いお世話になっていた事業体が林業からの撤退を決め、保有していた機械を弊社に譲ってくれ、



親子二人で素材生産業をはじめることになりました。

その後平成19年に私が跡を継ぎ現在に至ります。現在社員は私を含め6名おります。最近私は現場に出ず、長男に任せています。5名で現場に入り、そのうち機械を操作するのは3名、あと2名はトラックで搬出作業をしています。所有している機械は、SH120-7が3台(KETO 150 ECO、オカダハイブリッドバケット)、SH135X-7が2台(南星木材グラッフル)、SH135X-6が2台、SH120-5が1台、SH125が1台、SH200-6が1台(松本フェラバンチャザウルスロボ)の計10台です。すべて住友機になります。

昨年度の素材生産実績は22,000m³です。今年度も順調ですので、来年度には30,000m³超えをめざしたいと思っています。今の人数で目標を達成するためには、より一層の効率化が必要になってくると考えています。今の施業方法は、まず協力業者の方に先行して山に入ってもらい、予定している木をすべて伐倒してもらっています。道のない状態で伐倒してもらっているので、その後弊社のメンバーが道を付けながら木寄せして集材していきます。先行伐倒してすべての木が倒れてからの方が山の地形が見れるので道も入れ易く早く仕上がります。そして山土場に適した場所を見つけ、集材した木を集積していきます。道路に近い現場ではトラック

を近くまで入れて搬送していますし、道路まで距離がある場合はトレーラーの置ける場所まで小さなトラックで運ぶ方法をとっています。いろいろなやり方を模索しましたがこの方法が機械を止めることなく、スムーズに仕事ができ最も効率の良い方法だと思っています。

**ハーベスタは年間1200時間程度ですが、フェラバンチャは年間1800時間稼働しています。**SH200のフェラバンチャがパワーもあり作業効率も高いのもっと使いたいのですが、山がもたない所が多いので残念です。

宮崎では重機を入れられない山があり70年生や80年生の木が多く残っていて、今後はもっと状況が悪くなってくると思います。若い人は架線集材の方法を知らないの、機械にたよることになると思いますが、そのためにも大きい木が伐れる車体重量が軽く、パワーのある機械と、再生造林の省力化を進めるための小型機械の開発もぜひ住友さんをお願いしたいですね。」



弊社営業と談笑中



1山元 一真さん 2東 竜馬さん 3山元 隆之 代表 4小林 誠さん 5山元 聡真さん 6石ヶ野 郁弥さん



SH135X-7 オカダ木材グラッフル



SH120-7 オカダ ハイブリッドバケット

